



「日」蒲谷宏 主编
日本語研究会 著

一不小心就会用错 的日语

誰もが「うっかり」誤用している日本語の本



● 庞志春 译

上海译文出版社





H36
178

2006

日常 日语

一不小心就会用错

「日」蒲谷宏 主编
日本语言研究会 著

誰もが「うっかり」誤用している日本語の中



● 庞志春 译

上海译文出版社



图书在版编目(CIP)数据

一不小心就会用错的日语/(日)井口树生著;庞志春译. —上海:上海译文出版社,2006.6

ISBN 7-5327-3918-X

I. 一... II. ①井... ②庞... III. 日语—自学参考资料 IV. H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2006)第 002677 号

《誰もが「うっかり」誤用している日本語の本》

©井口树生 1999

All rights reserved.

Original Japanese edition published by KODANSHA LTD.

Simplified Chinese character translation rights

© Shanghai Translation Publishing House, China

Arranged with KODANSHA LTD.

Through SUPPORT CO., LTD.

图字:09-2003-065 号

本书中文简体字专有出版权归本社独家所有,
非经本社同意不得连载、摘编或复制

一不小心就会用错的日语

〔日〕井口树生著

庞志春 译

上海世纪出版股份有限公司

译文出版社出版、发行

网址: www.yiwen.com.cn

200001 上海福建中路193号 www.ewen.cc

、全国新华书店经销

上海市印刷三厂印刷

开本787×960 1/32 印张10.25 插页2 字数185,000

2006年6月第1版 2006年6月第1次印刷

印数: 0,001 5,500册

ISBN7-5327-3918-X/H·725

定价: 18.00元

如有质量问题, 请与承印厂质量科联系。T: 021-65698166

前 言

「こだわる」这个词，原本一直被用作“拘泥于不值一提的区区小事”之意。例如，我们经常这样劝告别人：「そんなつまらないことに、いつまでもくよくよこだわっていないで、少しは先のことを考えたらどうだい」（不要老是耿耿于怀地拘泥于这点小事，要往前看）。就是说，它本来是用于消极意义的。

然而，大约从十几年前开始这个词也被用于积极的意义了。例如：「彼は蕎麦の味にこだわっていたが、とうとう自分の店を開くまでになった」（他历来非常讲究荞麦面的味道，终于要开一家自己的店了）。

尽管这样，刚开始出现这种用法时，还是给人以顽固地坚持某一点的语气，似乎自己所做的缺乏完整性，只限于某一点，贬低自己而不给人以不愉快的感觉，总体来说是一种谦虚的表达。

但是，自从电视广告出现了「こだわりの一品」（精制的一款）后，谦虚的语气丧失殆尽，开始夸耀自己的“讲究”了。

前几天，在看NHK的节目时，发现播音员加贺美幸子在使用用作积极意义的「こだわる」，着实让我吃了一惊。因为，NHK一贯以正确的日语模范自居，现在竟然也承认了这种用法，而像加贺美幸子这样的为数不多的讲漂亮日语的女性也开始使用这种

语言，我不由对此感到意外。

由此可见，日语是在不断变化的，尤其是在语感方面发生了巨大的变化。但是，我们不能因为变化的时日尚浅而立即断定它是病句。语言，只要有百分之五十以上的人承认这种用法，那就不能说是错误的了。

但是，语言的用法不能只优先考虑使人际关系圆滑的感觉。更重要的功能在于它有没有能力将事物有序地加以组合和表现，这意味着日语能否继续保持世界通行的逻辑性。

有人说，“国际语言有英语就行”，但事情决非这么简单。许许多多的日本人通过日语整理和思考事物，用日语来掌握其他语言。日本人的思考能力首先是通过日语培养起来的。

重要的问题就交给专家去分析，让大多数日本人去判断，我认为现在正处于动荡阶段的日语首先应该有复活力。如果任其朝一个方向发展的话，不知它会走向何方，而且也有可能造成两代人之间语言上的鸿沟。

这册小书从日常使用的日语中选出了一些平时容易疏忽而用错的病句，并例示出其正确的说法。

希望能对动荡的日语复活尽绵薄之力。

平成十一年(1999年)六月
井口树生

一不小心就会用错的日语

目 录

第一章 哪种表达正确?

愛想をふりまく/愛敬をふりまく	3
相槌を打つ/相槌を入れる	3
蟻の這い入る隙もない/蟻の這い出る隙もない	5
暗雲を投げかける/暗雲が漂う	6
怒り心頭に達す/怒り心頭に発す	6
生けづくり/生きづくり	7
一生懸命/一所懸命	8
薄紙をはぐよう/薄皮をはぐよう	9
嘘は泥棒のはじまり/嘘つきは泥棒のはじまり	10
恨み骨髓に徹す/恨み骨髓に達す	11
上前をかすめる/上前をはねる	12
蘊蓄を傾ける/蘊蓄をひけらかす	12
えさをあげる/えさをやる	13
笑みがこぼれる/笑顔がこぼれる	15
おいてけぼり/おいてきぼり	16
屋上屋を重ねる/屋上屋を架す	17
お元気でございますか/お元気でいらっしゃいますか ..	20
汚名を晴らす/汚名をすすぐ	20
思いもよらない/思いもつかない	21
お求め安い/お求めになりやすい	21
親譲り/兄譲り	22
顔色をうかがう/顔をうかがう	23
影の形に添うように/影に形が添うように	24
風下に置けない/風上に置けない	25

門松は冥途の旅の一里塚/正月は冥途の旅の一里塚	26
ぎこちない/ぎこちがない	27
雉子も飛ばずば打たれまい/雉子も鳴かずば打たれまい	28
きずなが強まる/きずなが深まる	29
氣勢をあげる/氣勢を発する	29
期待外れ/期待倒れ	30
気に沿わない/気に染まない	31
くしの歯が抜ける/くしの歯が欠ける	35
口裏を合わせる/口車を合わせる	35
口が減らない/口数が減らない	36
口をつぐむ/口をつむる	37
公算が大きい/公算が高い	37
小気味よい/小気味悪い	38
御託を言う/御託を並べる	38
言葉を濁す/口を濁す	39
さいさきがよい/さいさきが悪い	40
財布をはたく/財布の底をはたく	40
三十六計逃げるに如かず/三十六計逃げるが勝ち	41
屍に鞭打つ/死体に鞭打つ	42
時宜にかなう/時機にかなう	42
舌先三寸/口先三寸	43
舌つつみ/舌つつみ	45
十指を越える/十指に余る	46
死中に活を求める/死中に活を得る	46
斜に構える/斜めに構える	48
従来から/従来	49
照準を当てる/照準を合わせる	49
白羽の矢が当たる/白羽の矢が立つ	50
心血を注ぐ/心血を傾ける	51
陣頭指揮をふるう/陣頭指揮をとる	54
身命を投じる/身命を賭する	54

底が知れる嘘/底が割れる嘘	55
立つ鳥跡を濁さず/飛ぶ鳥跡を濁さず	56
著作をものする/著作をものにする	56
手に負えない/手が負えない	57
手と手を取って/手に手を取って	58
天地天命に誓う/天地神明に誓う	59
どうかいたしましたか/どうかなさいましたか	60
年には勝てぬ/老いには勝てぬ	64
とんでもございません/とんでもないことです	64
捺印をおす/捺印する	65
生つばが出る/生つばが湧く	66
苦虫を噛んだような顔/苦虫を噛みつぶしたような顔	67
願わくば/願わくは	68
熱に浮かされる/熱にうなされる	69
ねむけまなこ/ねぼけまなこ	70
念頭に置く/念頭に入れる	71
波紋を投じる/波紋を広げる	72
被害を受ける/被害をこうむる	73
微に入り細にわたる/微に入り細を穿つ	73
火蓋を切って落とす/火蓋を切る	74
貧すれば通ず/貧すれば鈍する	75
募金を集める/募金を募る	76
幕開け/幕開き	77
眉をしかめる/眉をひそめる	77
三日にあげず/三日とあげず	78
むずかしい/むづかしい	82
胸先三寸に納める/胸三寸に納める	82
めどがつく/めどが立つ	83
目鼻がきく/目端がきく	83
焼けぼっ栗に火がつく/焼け木杭に火がつく	84
休ませてください/お休みさせてください	86

病膏盲に入る/病膏盲に入る	88
弓を引く/弓矢を引く	89
余勢を買う/余勢を駆る	90
寄る年波には勝てない/寄る年には勝てない	91
夜を日についで/日を夜についで	92

第二章 易大意出错的词语的用法

ああ言えばこう	95
足を洗う	95
当たり年	96
圧倒的	97
脂が乗る	98
潔しとしない	98
いただく	99
板につく	100
異例	101
うかがう	101
後ろ髪を引かれる	102
嘘も方便	103
馬が合う	104
炎天下	105
縁は異なもの	105
老いては子に従え	106
老いてますますさかん	107
おうむ返し	111
教え子	111
お茶を濁す	112
岳父	113
片腹痛い	114
辛党	115

気が置けない	116
着の身着のまま	117
鳩首協議	117
軍門に降る	118
逆鱗に触れる	119
言を左右にする	119
ご苦労さま	120
骨肉相食む	123
小春日和	123
こけら落とし	124
匙加減	125
三年ぶり	125
算を乱す	126
持参する	127
私淑する	128
下にも置かない	129
舌を鳴らす	129
渋皮がむける	130
しめやか	131
珠玉	132
尻をまくる	132
隅に置けない	133
世間ずれ	134
千載一遇	134
惻隠の情	137
駄洒落	137
多々益々弁ず	138
たまわる	141
爪に火をともし	142
天に唾す	142
なさぬ仲	143
名を流す	143

煮え湯を飲まされる	144
盗人猛々しい	146
のしをつける	147
乗りかかった船	148
花も恥じらう	149
万障お繰り合わせのうえ	149
半畳を入れる	150
悲喜こもごも	154
額に汗する	154
二つ返事	155
筆が立つ	156
まんまと	157
耳障り	157
胸騒ぎ	158
役不足	159
矢先	160
柳に風	161
横車を押す	162
烙印を押される	163
柳眉を逆立てる	164

第三章 形似意异的词语

青田刈り/青田買い	167
頭ごなし/頭ごし	168
あらあらかしこ/あなかしこ	168
一言居士/一言半句	169
一抹の不安/一縷の望み	170
いやがうえ/いやがおう	170
裏腹/裏表	172
老い先/生い先	175

お先棒をかつぐ/片棒をかつぐ	176
おざなり/なおざり	177
折り紙つき/札つき	178
嵩にかかる/笠にきる	179
肩肘をはる/片意地をはる	180
顔色なし/顔色を失う	181
踵を返す/手の裏を返す	182
きわめつき/きわめつけ	183
苦汁をなめる/苦渋を味わう	184
首がまわらない/手がまわらない	185
玄人はだし/素人ばなれ	189
けちがつく/けちをつける	190
けんけんごうごう/かんかんがくがく	191
心なし/心もち	192
碁を打つ/将棋を指す	193
説を曲げる/節を屈する	193
是非/当否	194
前人未到/人跡未踏	195
多言/他言	196
駄目を押す/駄目を出す	197
朝三暮四/朝令暮改	198
提灯持ち/太鼓持ち	200
二の足を踏む/二の舞を演じる	201
法外/望外	202
ほぞを噛む/ほぞを固める	205
的を射た/当を得た	205
見得を切る/見栄を張る	207
目の色を変える/目つきを変える	208

▲第四章 易混淆的汉字

あら利益	211
いきせき切る	212
いちどうに会する	212
いっしん団体	216
いっすいの夢	216
命あつてのものだね	217
うけに入る	219
えいきを養う	219
おおだてもの	221
・おおばん振る舞い	222
おかしらつき	224
おくびにも出さない	225
おしきせ	226
おっとり刀	227
鬼のかくらん	228
かいこ趣味	229
かくうの話	230
かじ屋	231
かしょう申告	232
かまをかける	232
画竜てんせい	236
かんしんを買う	236
きいたふうな	238
きかい体操	238
危機いっぱつ	240
きとくな人	240
肝にめいじる	241
きょうき乱舞	242
興味しんしん	243
首じっけん	244
くも助	245
けっせん投票	246

げんか償却	250
けんもほろろ	250
綱紀しゅくせい	251
こうねんき障害	252
公平むし	253
ごぞんじ	254
こっぱ微塵	254
こべつ訪問	255
五里むちゅう	258
才色けんび	258
さいだい漏らさず	259
さっとうする	260
じが自賛	261
至難のわざ	262
じゃっかん十八歳	263
衆人かんし	266
しゅうちの事実	266
正真しょうめい	267
しょうどと化す	268
しょせい術	270
じょまく式	271
じろんを展開	272
人事いどう	273
しんやく聖書	274
すいげんち	275
ずがい骨	276
ずに乗る	276
せいてんの霹靂	277
ぜったい絶命	278
ぜんご策	279
ぜんしゃの轍を踏む	280
そうへき	281

たかが知れる	282
長こうぜつをふるう	284
直情けいこう	284
手ばなしで喜ぶ	285
てんしん爛漫	285
でんどう師	287
とうか親しむ	288
泥じあい	289
とんぼがえり	292
なしのつぶて	292
生びょうほうは大怪我のもと	293
人面じゅうしん	295
濡れ手であわ	296
のるか反るか	300
万事きゅうす	300
瓢箪からこま	301
ふうぶつし	302
ふとう不屈	303
ふわ雷同	304
粉骨さいしん	305
もくひ権	307
やくびょう神	307
ゆうめいを馳せる	309
ろじ栽培	310

▲ 专 栏

- ・ 馬にとってはいい迷惑 18
 馬齢を重ねる
 犬馬の労をとる
 馬の耳に念仏

- 本当は「ブス」ってわけ? 33
色白いは七難隠す
番茶も出花
- 自分の妻であればこそ 53
糟糠の妻
- 親子をほめるのはむずかしい 62
瓜の蔓に茄子はならぬ
鷹が鷹を生む
この親にしてこの子あり
- つまらないものにたとえたのでは 80
溺れる者は藁をもつかむ
枯れ木も山のにぎわい
他山の石
どんぐりの背くらべ
- 「大物」にもいろいろあって 87
海千山千
- ついほめ言葉のつもりで使うと 109
学究の徒
猿も木から落ちる
馬子にも衣装
- 虎と豹にたとえた意味は? 121
騎虎の勢い
君子は豹変す
- 第一子が女でよかったはずなのに 136
一姫二太郎
- 食卓の一品もこんな諺に 152
青菜に塩
雨後の筍
- 「どっこいどっこい」にも二通り 173
兄たり難く弟たり難し
五十歩百歩
- 男たるもの、かくありたい 187

- 鯉の一跳ね
伊達の薄着
- 喧嘩をしては舟は沈む? 204
呉越同舟
 - 誤用がいつのまにか定着? 214
酒池肉林
 - よさそうに見えて「悪い」取り合わせ 223
月に叢雲花に風
 - 男女の仲はこうでなければ 234
遠くて近きは男女の仲
連理の枝
 - 「いろはがるた」を正しく解釈 248
犬も歩けば棒に当たる
芋の煮えたもご存じない
 - 読み方にも注意! 257
竹馬の友
 - 咲かせたいのはどんな花? 265
死に花を咲かせる
花の下より鼻の下
 - 突き破って何が出てくる? 283
囊中の錐
 - とんだ勘違いをせぬようご用心(一) 290
可愛い子には旅をさせよ
流れに棹さす
 - とんだ勘違いをせぬようご用心(二) 298
情けは人のためならず
敗軍の将は兵を語らず
百年河清を俟つ